恐るべきライバル
水木しげる

二人が歩いている所をライバルにみつかった……

どう二人でうちへよってみない
ちょうど近くなんだよ
おどおどしなくてもいい将来学問で身を立てようというまじめな青年だ……ねえ花子さん

研究室にしちゃぁちょっと古めかしいけどいろいろと事情があってね

これはなんですか
原始時代の沼地を再現して原始生物を育てているのです

原始生物？
そうそれは動物でもなく植物でもない

ではなんだ
育ててみなければわからんよ

電気の力で沼の温度を一定にしておくのがむずかしい

ではみせてあげようかな

キャオオオオ

おどろくことはないよろこびの声をあげているだけだ

みてごらん
なんにも
こわくな
いよ

まあ

なにも
おどろくことは
ない足を
すべらした
だけだ

私そんな
人きらい
花子さん
誤解しな
い
で……

そのあくる日
花ちゃん
なにか
心配
ごと
でも
あるの

ぼく
なんでも
力になっ
てあげる

実は
これこれ
しかじか
……………

そんな
ひどい
ことって
ある
かな

かたづけ
てくれたら
結婚して
もいいわ
ぼく
と…

じゃあ
今夜
やります
から
お願い
します

その夜
……

めリ
め

サッ
あっ

ぽかっ

とんで火に入る夏の虫とはお前のことよ

花子さーん

キャーッ！

あっ

ううう

ばたっ

万事おれにつごうよくはこんだ花子はおれのものだ
ヒーッ！

その生物はオスだった彼は花子を通して地上に繁殖するだろう